

## 福島県「土壌スクリーニング・プロジェクト」活動報告 VI

【期間】2013年9月17日～10月18日

J A新ふくしまが中心になり福島県生協連、福島大学うつくしまふくしま未来支援センター、地産地消運動促進ふくしま協同組合協議会が共同してとりくみ、日本生協連が、全国の生協に協力を呼びかけています。福島が置かれた厳しい現状と安全な農産物を生産しようと努力する生産者・現地のとりくみを学び・共感を広げる活動として、いずみ市民生協は積極的にこの活動に参加しています。

### ■ボランティアの活動内容

サーベイメーターによる土壌表面からのベクレル/kgの測定機器（GPS 内蔵土壌汚染スクリーニングシステム）を使って、測定農地の確定⇒台帳と農地地図との照合⇒場所確認⇒現地⇒GPSにて台帳と実地の確認⇒記録写真⇒実測（入口・中間・出口の3ヶ所）を行います。

※具体的には、福島市の全農地を対象に水田、畑1枚ごとに放射性物質を測定して汚染状況をより細かな単位で明らかにする作業です。6月以降は、稲作がはじまりましたので、果樹園を主に作業をすすめています。

安全対策として、計測中は放射線積算線量計を携帯し放射能レベルを随時確認しながら作業します。

## 福島からの活動レポート VI

【活動期間】9月17日～21日 【職員名】商品検査センター／美野

### ●9/17（火）

3回目の土壌スクリーニング参加です。



初日は恒例のプロジェクトの現状を含めたレクチャーでした。

果樹園は今月中に終了予定で進行中、水田は今年中には終わらないようです。

昨日は果樹園（りんご、ブドウ）の測定でした。

測定場所の特定のため、生産者に確認しなければならず時間を要しましたが、21箇所63ポイント測定でした。比較的汚染の少ない地域で平均値より低い数値でした。3回目にもなるとセシウムが検出されること、空間線量が大阪より高くても違和感を感じなくなることが恐ろしくなります。今日からも果樹園の終了に向けて測定したいと思います。

20箇所60ポイント以上が目標です。この2日間はコープネット政策推進室の田川部長と一緒にしました。コープネットでは田川部長の企画提案が組織的に推進することが決定し、年内に総勢100人規模で参加するそうです。台風による被害もなく、秋を感じる中で引き続き頑張りたいと思います。

### ●9/19（木）

昨日も素晴らしい秋空の中で72ポイントの測定でした。

スタッフの阿部さんは、来週には果樹園の測定が終了し、水田の測定に移るようです。土壌スクリーニング・プロジェクトでは、終了した水田のデータをまとめて、まずは生産者に個々の検査結果報告、全体の結果や評価を報告する予定とのこと。年明けには果樹園と、1年間の活動の成果が出ようとしています。地道な測定が実を結ぼうとしています。生産者との交流会は、「かーちゃんの力」プロジェクトの渡邊とみ子会長、福島大学の朴先生。渡邊さんからは、飯館村での生産から加工、販売までの活動が原発事故により避難しなければならなくなったけど、いち早く再開し、かーちゃんたちの力強い活動を継続していること。朴先生からは韓国をはじめとして、諸外国では、原発事故の報道は信じられていない。

日本からの水産物の輸入禁止措置など、日本国内以上に放射能汚染問題は関心ごとのようである。

最終日は午前中が測定、午後から日本生協連主催の「福島支援活動交流会」に参加予定です。

## ●9/20(金)



今週は帰る日まで素晴らしい天気でした。最終日は11時まで果樹園の測定で、その後、関西大学生協の土壌スクリーニング視察の対応でした。デモ測定と説明、モニタリングセンターの見学にお付き合いしました。8月にコープラボに見学に来られた学生さんも何人かいました。



午後からは「福島支援交流会」(いずみの組合員理事も参加)に参加し、色々な活動やとりくみ報告を聞き、他生協の方とのグループワークなど、有意義な時間を過ごしました。実際に参加することにより、知り得ることがたくさんあります。

10月以降も席は空いていると思います。忙しい中ですが、積極的な参加を期待します。

## 【活動期間】9月24日～28日 【職員名】 理事会事務局／溝渕

### ●9/24(火)

12時45分ごろ福島駅についてからはすぐに福島県生協連に移動、そのまま講義を受けました。



今回講師をしていただいたのは、福島大学うつくしまふくしま未来支援センターの野川特任教授と、朴特任研究員のお二人です。野川先生からは放射能についての基礎知識から検査方法、汚染の現状と対策について教えていただきました。実際に近くの公園でGM管とNaIシンチレーション検出器を使い、放射線の数値を確かめてみました。道路のまんなかでは低い数値だったのが、排水溝や雨どいで一気に上がり驚きました。

除染についての説明もありました。問題は除染した後の土や廃棄物の行き先で、最終処分の場所や方法も決まらない中、福島県内に作られた中間貯蔵施設もすぐにいっぱいなり、県外はほぼ受け入れられず、県内でも新しい施設の受け入れがすすまない。

この結果除染作業自体がすすまず、計画の2割程度しかすすんでいないそうです。朴先生からは、原発事故から土壌スクリーニング・プロジェクトが始まるまでの経緯とその意義を教えてくださいました。この世界初の試みについて、福島の風評被害の現状、情報がいかに伝わっていないか、この活動が広がれば、営農提案につながり、生産者も消費者も安心して作り、選べることにつながるはず。問題はまだまだたくさんあるようですが、この活動を成功させ、福島の農業復興の手助けができるよう、全力でとりくもうと気持ちを新たにしました。



ちょうど講義のあとホテルに帰ってテレビをつけると、楡葉町の議会で中間貯蔵施設建設についての案が出され、反対多数で否決された、との報道がありました。

また安倍首相の福島第一原発訪問で五号機六号機廃炉を指示したことについて地元自治体から大きな反発が出ていることなど、大阪ではまったく情報が入ってこないニュースがたくさん流れていました。

### ●9/25 (水)

2日目、初めて作業に参加しました。

9月いっぱいには果樹園の調査です。

2012年4月に除染の補助金を申請したリストを元に、事前にGPSに入れた住所と照合しながら、果樹園を一つ一つ測定していきます。

全体で、果樹園は96%まで測定がす

ずんでいるようで、9月中には終わりそうという予想になっていました。しかし現場では、山の方の果樹園だと庭なのか果樹園なのか荒地なのかわからないような場所も多く、測定に入るまでの調査に時間がかかっていました。ポイントさえ特定すれば、調査自体は極めてシンプルな作業です。ロケットを置いて2分待つだけ、これを繰り返します。今回は主にりんご畑が多く、作業をしながら一緒に調査した方に福島のりんごや農作物について、色々教えてもらいました。

夜は交流会でした。今回は土壌スクリーニング・プロジェクトの第一人者である福島大学の小山先生、朴先生、2011年から率先して民間空間放射線測定をはじめた「放射能からきれいな小国を取り戻す会」の菅野さんが来られていました。この活動に極めて関係の深い方たちが久しぶりに集まったということで、まるで講義の続きのような、貴重なお話をたくさん聞くことができました。

### ●9/26 (木)

3日目、引き続き作業でした。午前山中でしたが、午後からは街中に点々とある果樹園を測って回りました。稲刈りの季節に入ったようで、あちこちにある田圃ではたわわに稲が実っていました。街中では山のように荒地になっているところはありませんでしたが、伐採されてしまっている畑が多かいのに驚きました。

戻ってJAの紺野さんから機関誌の取材をさせていただきました。やはり、放射能汚染された、というだけで畑や田んぼを見るのも嫌になる人もたくさんいて、放置して荒地になったり、伐採してしまったりしてしまうそうです。そうなる農業者があと世代に続かなくなるので、また別の問題にもつながってしまうとのことでした。他にも、たくさんのお話をお聞きしました。まだまだ評価されるまでっていないが、誰かが本格的な調査をしなければならない。そんな思いで続けてらっしゃるとのことでした。

### ●9/27 (金)

作業3日目です。本日で作業は最後です。昨日は雨がパラパラと降っていたのですが、本日は快晴。絶好の調査日和でした。1日目、2日目は山が多かったですが、本日はほとんど住宅地にある畑が多



かったので、比較的スムーズにすすみました。主に桃、りんごの果樹園の土壌調査を行いました。目の前に吾妻小富士という山があり、色々教えてもらいました。その山に冬降った雪がとけていくと、うさぎの形が残るそうです。吾妻の雪うさぎとって、うさぎの形が出てくると種撒きの季節になるのだとか。



調査のあとはワークショップでした。福島県生協連の平井さんと3日間の活動を振り返りました。

参加した三人は、現地の人の反応などから調査は一定すすみ、信頼されていることなど、直接農家の方との話で実感を得られたなど、報告がありました。

福島での調査はあっという間でしたが、現地で過ごしている、営農しているかたがたの様子や真剣に活動している生協連、JA、大学のかたがたの熱意など、来てみて初めて実感できることがたくさんありました。参加させていただきまして、本当にありがとうございました。

**【活動期間】 9月30日～10月4日 【職員名】 堺中央共同購入センター／田浦**

#### ●9/30（月）

初日はJR福島駅到着後すぐに福島県生協連に向かいました。

コープネットの方4名と共に福島大学の野川先生より放射能についての学習会がありました。

実際に放射能に含まれるベータ線の量を計る測定機で測定を行ったのですが、屋内と屋外では測定値に大きな差があって屋内では50cpm前後に対して屋外(特に道路脇の溝付近)では1500cpmにもはねあがりました。

放射能は低いところに流れていき、特に水まわりなどは未だに放射能度が高いとのことでした。

その後、近くの公園で測定を行いました。

施設管理の方に話をお伺いしたところ、昨年8月に除染作業のために公園の砂場の土や芝生、花壇をすべて入れ換えたとのことでした。

それでも未だに公園で遊ぶ子どもさんは少ないと寂しそうにおっしゃられていたことが印象的でした。

#### ●10/1（火）

測定開始初日です。

今日から川中町という初めて測定に行く場所に向かうらしく、少し長めのミーティングが行われました。その間に私とコープネットの方々は拠点となるJAから15分程の山木屋地区という警戒区域に向かいました。



←除染処理後の土壌などが黒い袋に詰められ山積みになっています。

水田の土をはがす除染作業が行われていましたが、町自体は人も住んでいなくて完全なゴーストタウンでした。

震災の爪痕を目で見て感じました。



測定は雨の中行われましたがきれいに整備された果樹園らしく、13箇所42ポイントを順調に終えることができました。

比較的測定値が低い果樹園で、同行いただいた農家の方にその事を伝えると安堵の表情を浮かべられていたのがすごく印象的でした。

測定器の数値をみて、放射能は山木屋のように目には見えないけども、山木屋町とおなじく深い震災の爪痕なんだなと感じました。

### ●10/2 (水)

測定を開始して2日目。雨が降る中、飯野町の果樹園の測定となりました。

測定箇所では、雨で地面がぬかるんでいるということもありましたが、土壌が掘りかえされたようになっている箇所がありました。

お話をお伺いすると、犯人は猪だろうとのことでした。

猪も内部被爆しているものが多く、狩りができなくなってしまったために頭数が増える一方で、果樹園を荒らしに来る被害も増えてきているそうです。生産者の方々は、原発事故以来、風評被害だけでなく様々な問題に直面しているなと感じました。

夜は、ふくしま土壌クラブの方々と交流会がありました。

原発事故当初は心が折れかかっていたり何度かあきらめそうになられていたそうですが、それではいけない、と福島の農業を復興するために栽培者同士で力を合わせてとりくんでいます。

産地再生に向けて自分たちで測定器を調達し、放射能についての知識を身につけられてきたとのことでした。測定数値の裏付けがあって、はじめて自分たちが安全な作物を生産していると、確信して栽培にとりくむことができたそうです。

土壌スクリーニングの活動は消費者に安全を伝えるだけではなく、生産者の精神的な支えとしても必要な活動だと感じました。

### ●10/3 (木)

最終日の測定となりました。果樹園の測定も最終日とのことで、上手くいけば水田の調査も経験することができたのですが残念ながらそこまではできませんでした。

今日から新たにコープみらいの方も合流して、私は測定作業の引き継ぎを行う役目を担いました。

最後に福島の現情を知るために、JAの紺野さんに再び警戒区域に連れて行っていただき、



除染作業の見学を行いました。侵入禁止区域なのですが、老人夫婦が自宅に戻ってきたところを警察に注意されていたのが印象的でした。

また、テレビで見ていたダッシュ村から10分と離れていないということもお伺いし、わずか2年で土地の荒廃を感じて、あらためて震災の爪痕を感じました。

モニタリングセンターの見学もさせていただきました。



農作物はすべてこの施設で検査を通過して国の基準100ベクレルをクリアしないと出荷できないとのことでしたが、一軒の農家の問題だけではなく、例えば2500戸ある福島の桃の農家わずか一軒からでも基準値を越える測定値がでた場合は福島の桃すべてが出荷停止になるとのことです。

J Aでは絶対に測定値が基準値を越えること

のないように管理と対策をとっています。

最終日となりましたが、いい経験をさせていただきありがとうございました。

大阪に戻っても今回の経験を生かしていきたいと思います。

### 【活動期間】10月15日～19日 【職員名】 商品検査センター／鈴木

#### ●10/15(火)

13時に福島生協連に到着し、早速福島大学の野川先生と朴先生の講義を受けました。放射能、原子力災害による環境の汚染、土壌スクリーニング・プロジェクトの意義等について、実際に建物の外で線量計を使うなどして教わりました。

100m<sup>2</sup>毎に線量を測って作成した分布マップの例を見て、国が行う2キロm<sup>2</sup>毎の調査では農業を立て直す効果的効率的な対策を立てることは困難なんだな、と理解しました。

明日から測定作業です。手順を間違えないように取り組もうと思います。

#### ●10/16(水)



昨日は台風の影響で朝から雨風が強かったため、午前中は作業が休みで、昼から放射能の測定所と米の全袋検査場を見学しました。

福島県内で生産された食用、飼料用の米はすべて、各地の放射能検査場に持ち込まれます。

30kg/1袋毎ベルトコンベアに乗せて放射能濃度を測り、基準値以内と確認したものに検査済シールを貼付します。

時間も費用も人手もかかりますが、この手続きがあって、これが知られることで、生産者も消費者も、

流通している福島産米を食べても放射能による危険はない、と自信をもって言えるようになっていくのかなと思いました。

#### ●10/18(金)

木金曜日も前日に引き続き、測定をしました。

特に木曜日までは、雨でぬかるんだ田圃に長靴をとられながらの作業でした。

台風が去ってから急に寒くなり、遠く山の上の方は雪が降ったようで、白い部分がありました。

測定現場に積雪すると測定ポイントが確認し辛く、効率が落ちるそうです。

初日に朴先生が今年度中の終了は難しいと思う、と仰っていたのを思い出しました。

改めて、気が遠くなる大変な作業だと思いました。

また、私が測定に参加した地域は汚染度合いが比較的低いようでしたが、他の地域を回った方に話を聞くと、福島市内でも地域によって差があることがわかりました。

金曜日の作業を終えたところで、福島大学の関連機関が企画している「福島学構築プロジェクト」の参加者の方から、質問を受けました。

震災前後、土壌スクリーニング参加前後で、食と農について考え方や行動がどう変化したか聞きたい、ということでした。

2000人分のデータを実際の福島の人口構成の割合に合わせて記録し、福島の現状と課題を洗い出すそうです。

参加前までは、漠然と不安がありましたが、思っていたよりも遥かに現地スタッフの方々は受け入れに慣れていて、測定もスムーズに行えました。活動に参加した4日間は貸与していただいた積算線量計を持ち歩きました。

今回来福してよかったです。参加させていただいて、ありがとうございました。



見学の後、チームに分かれて測定に向かいました。

10月から田圃の測定を再開していますが、台風による大雨で田圃に水がたまっていて、

まったく測定できなかったチームもあったようです。

夜は交流会に参加しました。

ならコープとコープネットの職員の方、ユーコープの組合員さんご夫婦、農家の方、放射能測定団体の方、福島生協連の方が参加されていました。

東日本大震災発生から今まで沢山の方が、それぞれの考え方で行動して被災地とかかわってきていることを知りました。